



笑顔、きらきら、天竜川。

天竜川上流
河川事務所

天竜川上流河川事務所より、地域の皆さまへのお知らせです。

天竜川の自然再生を考える ツツザキヤマジノギク 観察会



カワラサイコ



「河原の星の花」ともいわれる、天竜川に咲く希少植物ツツザキヤマジノギク

ツツザキヤマジノギクの咲く礫河原を、みてみませんか？



河原植物ツツザキヤマジノギク(絶滅危惧種)の調査体験などを行う、現地観察会です。

お気軽にお越し
「ださい」
参加者
募集

開催日：10月31日(日曜) 少雨決行(荒天中止)

場所：松川町元大島地先 10時～(12時終了予定)

【受付9:30～】 ※集合場所や当日の連絡先、持ち物などの詳細は裏面をご覧ください。

◎プログラム [特別講師: 信州大学名誉教授 土田勝義 先生]

【紹介】松川町元大島地先における自然再生と河原植物(在来種と外来種)の観察

【体験】河原植物「ツツザキヤマジノギク」のお花見とモニタリング調査(花の数カウント)

【講習会】ツツザキヤマジノギクを保全するための外来植物駆除方法の解説

松川町元大島地先には、全国でもこの周辺にしかみられない「ツツザキヤマジノギク(絶滅危惧種)」などの貴重な河原植物が生育しています。今回の観察会では、めずらしい形をしたツツザキヤマジノギクの花を観察しながら、これらを保全するための基礎調査(花の数を数えるなど)を体験します。また、河原植物の生育環境を脅かすオオキンケイギク(特定外来生物※)などの外来植物のかんたんな駆除方法もあわせてご紹介します。きれいに咲いたツツザキヤマジノギクをみながらの作業です。地域の希少な自然を守るため、ぜひいっしょに活動してみませんか?

※特定外来生物とは、生態系等に悪影響があると見て、法律(外来生物法)で飼育や栽培、運搬などが禁止されている外来種です。



松川町元大島地先の河原

集合場所案内

松川町元大島地先

松川浄化センター付近

10月31日 日曜日 (荒天中止)
10時開始(受付 9:30~10:00)

国道153号(三州街道)より、
松川浄化センターに向かって一般道に入り、
天竜川右岸側へお越しください。
当日は河原に駐車場を用意してあります。



どなたでも、ご参加いただけます(無料)。

事前のお申し込みは必要ありません。お気軽に集合場所までお越しください。

ご参加にあたっての留意事項(必ずお読みください。)

- ◎ 動きやすく、汚れてもよい服装(長そで・長ズボン)と、運動靴でお越しください(河原を歩きます)。
- ◎ 少雨決行ですので、雨具の用意をお願いします(両手の空くカッパが安全です)。
- ◎ 足元が悪いため(河原)、かばんは両手の空くリュックなどをお持ちください。
- ◎ 現地にはお手洗いがございませんので、事前にお済ませください。



【主催】天竜川上流河川事務所 調査課

〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10 Tel.0265-81-6415

【後援】松川町・松川町教育委員会

当日連絡先: 090・5500・3387(佐野) ※雨天時の開催確認などはこちらへお願いします。

天竜川の
礫河原における

守りたい在来植物



「河原の星の花」ともいわれる、天竜川に咲く希少植物ツツザキヤマジノギク

ツツザキヤマジノギク

キク科 二年生草本

長野県レッドデータブック：絶滅危惧ⅠA類

- 全国でも、長野県天竜川流域のごく限られた場所にのみ生育する、希少な植物です。
- 近い将来における絶滅が危惧されている種で、長野県レッドデータブックの最も絶滅の危険性の高い種（絶滅危惧ⅠA類）、長野県の条例*の保護対象種（指定希少野生動植物）、また松川町の天然記念物に指定されています。
- 花びら（舌状花）が筒状に咲くことから、その名前がついています。花びらの先が2つに割れたものや、筒状にならず先が細かく割れたものなど、変化に富んだ形の花々がみられることも、特徴のひとつです。
- 主に、日当たりのよい礫河原に生育します。花は晩秋（10-11月ごろ）に咲きます。発芽から1～2年程度で一度だけ花を咲かせた後、枯死します。種子の寿命が短いため、親株がいなくなってしまうと絶滅する可能性が高いことから、これらを保護することが望まれます。



ツツザキヤマジノギクの花。その形に、さまざまなタイプがみられる



結実したツツザキヤマジノギク



ツツザキヤマジノギクの生育環境（礫河原）

■ご注意■ ツツザキヤマジノギクは、採ってははいけません！

「ツツザキヤマジノギク」は、長野県の条例*により保護されており、県への届出なしに採取すること（抜くこと、種子を取ること、など）が禁止されています。

みつけても、採るのはもちろん、折ったり、踏んだりしないで、大切に見守ってください。

*長野県希少野生動植物保護条例

天竜川の礫河原における 駆除したい外来植物

近年、天竜川には多くの外来植物が侵入しており、ツツザキヤマジノギク(裏面参照)をはじめとした河原植物(カワラサイコ、カワラニガナなど)が減少しています。これらを守るためには、以下に挙げるオオキンケイギク等の外来植物を駆除(抜き取り)し、生育環境である礫河原を維持することが有効です。

オオキンケイギク キク科 / 多年生草本(北アメリカ原産) 特定外来生物※1



シナダレスズメガヤ イネ科 / 多年生草本(南アフリカ原産)



ハリエンジュ マメ科 / 木本(北アメリカ原産)



アレチウリ ウリ科 / 一年生草本(北アメリカ原産) 特定外来生物※1



オオブタクサ キク科 / 一年生草本(北アメリカ原産)



※1 特定外来生物: 外来生物法によって「特定外来生物」に指定されている種で、植えることや撒くこと、持ち運ぶことなどが、法律で禁止されています。

◎ 外来植物によるさまざまな悪影響

現在のツツザキヤマジノギクの自生地は数えられる程度で、極めて局所的です。また、生育地においても、ハリエンジュやオオキンケイギクなどの外来植物に追いやられ※2、その個体数は減少傾向にあります。このような例をはじめ、外来植物は以下のような悪影響を及ぼす恐れがあります。

花粉症の原因になる。

洪水時の水流を妨げてしまう。

環境の基盤を変質させてしまう。

ほかの植物を追いやってしまう。

その他、在来種との交雑によってその種の純系を絶滅させる、農業に被害を与える、など。。

※2 ツツザキヤマジノギクなどの河原植物は、礫河原という厳しい環境に生育していますが、これは他種との競争を避けるには都合のよい場所です。しかし近年では、そのような環境にもオオキンケイギクなどの外来植物が侵入しています。外来植物が繁茂すると、生育場所がうばわれたり、成長に必要な日光がさえぎられることにより、河原植物が衰退してしまうと考えられます。